



↑たくさんの積み木を利用し、協力してお城を作る園児。

1万個の積み木に笑顔もたくさん

■積み木遊び／あおぞら保育園

あおぞら保育園の1歳児から5歳児までの園児約90人は1月19日、同園ホールに用意された積み木約1万個で積み木遊びを楽しみました。これは同園保護者会が「たくさんの積み木で遊ばせたい」と、落合製材所（島田市）に依頼したもの。積み木は大井川流域の杉やヒノキで作られ、軽くて角がなく、安全に遊べます。園児らは、たくさんの積み木に目を輝かせ、ピラミッドやお城など、創造力を働かせながら楽しく遊んでいました。

ことしも元気に遊べますように

■どんど焼き／牧之原保育園

牧之原保育園は1月14日、園庭でどんど焼きを行いました。このどんど焼きは、昨年末に園児らが作ったお飾りを持ち寄って燃やす同園の行事。登園した園児らは順番にお飾りを燃やし、その煙を体に浴び、ことし1年の無病息災を祈りました。また、園児らは燃やした火で餅を焼き、しょうゆを付けのりを巻き、磯辺焼きにして食べました。園児は「おいしい。もっと食べたい」などと元気いっぱい話していました。



↑どんど焼きの火で、餅を焼く園児ら。

1日限定のウォークに600人参加

■国道473号相良バイパス開通記念ウォーク

国道473号相良バイパスの全線開通を記念するウォークは1月22日、市内外から約600人が参加し、開催されました。ウォークで使用された区間は、西萩間インターチェンジから東名相良牧之原インターチェンジまでの往復8km。供用が開始されると歩くことができなくなるため、参加者はじっくりとバイパスから見える風景を楽しんでいました。また、折り返し地点では、男性グループ「チュー坊の会」によって、お汁粉が振る舞われました。



↑風景と会話を楽しみ、思い思いのペースで歩く参加者。



↑市幹部職員らに逸品を紹介し、意見交換をする農業経営士。

地場産品を市と協力し売り込みへ

■「自慢の逸品」紹介の集い

市内の県農業経営士と青年農業士が主催する「自慢の逸品」紹介の集いは1月20日、さざんかで開催されました。これは、市内の農産物や花、加工品などの地場産品を市職員に知ってもらい、情報発信に役立ててもらおうことがねらい。会場には、緑茶やプーアル茶、レタス、ガーベラなど約50品が並びました。経営士らは「感動を与える栽培を行いたい」「ブログやツイッターを利用した情報発信をしている」などと自慢の逸品を紹介、説明していました。



↑開通式でテープカットをする西原市長（中央右）や川勝知事（中央左）ら。

陸・海・空が一体に

■国道473号相良バイパス開通式

東名高速道路相良牧之原インターチェンジと西萩間インターチェンジ間（4km）を結ぶ国道473号相良バイパス開通式は1月23日、地権者や国、県、市の関係者が参列し、い〜らなどで行われました。これにより、富士山静岡空港から御前崎港までが一本の道路でつながりました。式典で川勝平太県知事は「この4kmは地球1周分の4万kmに匹敵するほどで、地域が飛躍する道路になる」とあいさつし、スズキの鈴木修会長兼社長は「造って終わりではない。利用度を高める運動をしてほしい」と述べました。供用開始がされた午後には、多くの車が通過していました。

新年のスタートは緑茶で乾杯

■牧之原市新春初顔合わせ会

牧之原市新春初顔合わせ会は1月4日、うおともで開かれ、市内外の行政関係者や団体、企業の代表者など約240人が出席しました。市長は「国道473号相良バイパスが全線開通し、陸海空の社会インフラが整ってきた。企業も注目する地域となる」と年頭のあいさつをしました。出席者は、静岡牧之原茶「望」ブランドで乾杯した後、市内菓子店の自慢のお菓子を味わいながら、新年のあいさつを交わし抱負を語り合うなど交流を深めました。



↑出展された手もみ茶の味を楽しみ、会話が弾む出席者ら。



↑人吉市の田中市長とウェブ対談する西原市長ら。

友好交流50周年新春トーク

■人吉市とのウェブカメラ対談

相良町時代から続く熊本県人吉市との友好交流50周年を記念し、人吉市田中市長と西原市長は1月4日、インターネットでのウェブカメラ対談を実施しました。人吉市とは、1959年12月に相良氏を通じた歴史的な縁から交流が始まり、昨年は本市の産業フェアに出展するなど現在も交流を深めています。対談では、静岡牧之原茶を宣伝したほか、空港を利用した地震や集中豪雨などの災害時の相互支援などについて話し合われました。

広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報室 ☎ (23) 0044 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

